

作物名 **こんにゃく** (サトイモ科)

J A 2022 版

標準作型

○印・植付け □印・収穫

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地				○	○							

栽培のポイント

低温に弱いため、冬季の地温が1℃以下になる場所は、秋に種いもを掘りあげておき、室内に保管貯蔵する。根腐病・白絹病などの原因は、連作からくるものが多いので3年以上連作したら、2年間他の作物を作付けする。防風対策も重要である。

畑の準備 3月頃、地力向上のため完熟堆肥(100kg/a)を施し耕起しておく。

種いも 種いもの良し悪しは生育や収量に影響するので、主芽の萌芽状況がよく、重く充実したものを選ぶ。また、植付け前に病害対策として消毒を行っておくとよい。

植付け 土質は選ばないが水はけのよいところを選ぶ。
植付けは4月下旬から5月中旬が適期である。
うね間は60㎝とする。株間は、生子(1年生)、2年生(30~50g)は15㎝程度、3年生(200~300g)は50㎝程度とする。また、生子は芽から3㎝程度、2、3年生は芽を45度傾けて、10~15㎝の深さに植付ける。

土寄せ追肥 植付け後、約1ヶ月で芽が出る。6月ころの芽が出始まった頃に、生子で数㎝、2~3年生で10㎝程度の厚さに土寄せをしておく。また、土寄せの際に追肥を行う。

病虫害防除 腐敗病・葉枯病にかかりやすいので、必要に応じ防除をする。

収 穫 葉が枯れてから、残った茎を目印にクワで掘り上げる。
いもから伸びた生子は保存し、翌年の種いもに、連作はせず別の場所に植える。

種いもの保存 掘りあげて10日ほど外気に当てて乾燥させ、新聞紙などでくるみ、段ボール箱などに入れて風通しのよい場所に保存する。いもは重ねない。適温は5~7℃。

肥料施用量 (1 a 当たり使用量)

肥料名	化成肥料 14-14-14	施肥時期
元肥	9 kg	植付け前
追肥	3 kg	土寄せ時